



国立精神・神経医療研究センター
バイオバンク

(倫理指針に則る情報公開)

～次世代の医療のために～

以下の研究は、皆様よりNCNPバイオバンクに提供いただいた臨床試料（検体、おもに血液・髄液等）と臨床情報の利用を倫理委員会で審査され、活用していただくことが認められた研究です。

この研究について知りたいことや、気になる点がありましたら、遠慮なく下記のバイオバンク窓口にご相談ください。ただし、個人情報の保護、知的財産権の保護により、ご対応・ご回答できない場合がありますので予めご了承ください。

- ・本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。
- ・研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

【対象となる方】

2012年12月7日以降にご同意いただいた方で
神経変性疾患と診断された方、特に疾患のない方

【研究課題名】

神経変性疾患原因タンパクの凝集体の立体構造と症状・個人差の相関の解明

【研究責任者】

中山隆宏（金沢大学ナノ生命科学研究所）

【本研究の目的及び意義】

アルツハイマー病、パーキンソン病などの神経変性疾患では、原因タンパク質であるアミロイド β 、タウ、 α シヌクレインが凝集して脳内に蓄積します。近年、これらの凝集体の形とその種類が症状と関係があることが分かってきています。しかしながら、脳内の凝集体の形と種類を調べるための検査は脳組織の一部を取り出す必要があり、被験者の負担が非常に大きいため、実施は現実的ではありません。一方で、脳を覆う脳脊髄液には凝集の中間体が含まれることが知られています。わたしたちは、中間体の形と種類も症状と関連があるのではないかと考え、多くの患者様のご協力を頂きながら、脳脊髄液中の中間体の形と種類を調べ、症状との関連を調べる研究を行っています。アミロイド β 、タウ、 α シヌクレインの凝集中間体とアルツハイマー病、パーキンソン病などの症状に関連が見つかれば、被験者の脳組織を採取するよりも負担が低い少量の脳脊髄液採取で、症状の診断、予見、さらには、特定の間体体に作用する薬の開発、患者様個人別の薬の選択によるオーダーメイド医療へ応用できると考えています。

【本研究に提供する試料・情報】

髄液

性別、年齢、臨床診断、既往歴、家族歴、服薬情報、心理検査結果

【研究期間】

2022年4月16日から2026年9月30日まで

2022年5月

(問い合わせ窓口)

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター バイオバンク

所属 メディカル・ゲノムセンター バイオリソース部

電話番号 042-346-3520 E-mail: biobank※ncnp.go.jp (※を@に変更してください)